



## 松蔭イングリッシュキャンプ!

8月1日(火)、昨年度に引き続き、神戸松蔭女子学院大学を会場に、様々なアクティビティを用いながら英語を学ぶ1日英語研修(イングリッシュキャンプ)を行いました。1、2年生13人が参加し、大学文学部のMario先生、山下尚子先生や、本校OGを含む大学生の方々と英語を楽しく学びました。キャンパス案内や学食でのランチ体験もあり、一足早い大学生気分も味わえました。今回は、他校の高校生も参加し、様々な方とのコミュニケーションを取る場にもなり、参加した生徒たちは刺激を得たようです。

### 【生徒アンケートより】

楽しく英語と関わることが出来ました。ありがとうございました／とても明るく楽しい雰囲気の中で英語を学ぶことができ、よかったです／普段あまり大学生と交流する機会がないので、新鮮で良い経験になりました!／大学生活や英語などについて色々なお話を聞くことができ、すごく勉強になりました。



## 神戸大学・マシュー先生特別授業

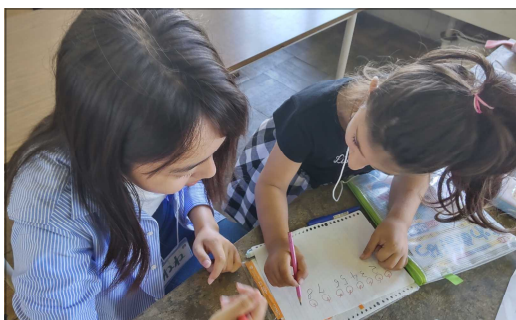
7月24日、1年生国際総合科では神戸大学からマシュー先生を招き、昨年に続いての特別授業を行っていただきました。タブレットを用いた英語学習の方法について講義していただき、生徒たちにとっては、夏休みの始めに、良い指針が得られた様子です。



## 宿題ボランティア

三木・小野両市で、外国にルーツを持つ小学生たちに対する「夏休み宿題ボランティア」が行われ、今年も多くの子が参加してくれました。以下、参加した生徒たちの声です。

言葉が通じなくても真摯に向き合うことで、子供はその意思を汲みとって仲良くしてくれるということが分かりました。私が担当した子は絵が好きで、絵を描くのに夢中になっていたけど、しばらくしたら私に計算を教えてくれるように頼んできたので、子供でもともしっかりしているんだなと思いました。ボランティアに来ている子はみんな積極的で自分から仲良くなりに行こうとしていたので、見てて微笑ましかったです。また機会があれば是非参加したいです／3回目の参加





だったけれど、やっぱり勉強を教えるということは難しいなと実感しました。日本語をよく理解している子も簡単な言葉で説明しないと伝わらなかったりするので、私の中で言葉遣いや語彙力が課題だなと感じました。今回は以前に比べ、少しだけ心に余裕を持って接することが出来たのではないかなと思います。

## Hallo, Goodbye !

1学期終業式で送別をした小林克海セドリックさんですが、8月末、ドイツへと旅立ちました。また、長年勤めてくださったパトリック先生、ルイズ先生もそれぞれ無事に帰国なさいました。

少し寂しくなりますが、9月1日からは、また、新しいALT 2名を迎えます！



No. \_\_\_\_\_  
DATE 2020年 8月 27日

僕の日本の一年

日本の一年も終わりとなってしまいました。ですので、僕の考えもあわせてこの一年を終わるいい機会だと思います。

日本に到着した時、僕はとてもエキサイトしていました。日本についてはよく覚えていたのですが、日本には何年か来ているからか、あんなのものが新しく見えました。とくに自動販売機をもう一度見たことに本当に感動しました。変に聞こえるかもしれませんが、僕が普段住んでいるところを見せられるとわかると思います。また日本の山々を見た時にも同じ感動がありました。それは特別な何かで言葉にできるものではありません。

他の国に行くときに実感できるのは自分の国をちゃんと知ることができるということです。その訪ねている国で好きなものもあれば、自分の国にしかないものもあります。それは世界中にユニークな文化があり、みんなが同じように生きているのではないという発見や気づきがありました。

この一年の思い出の一つが大晦日です。とても静かに鐘の音が遠くで鳴り響いていました。今では一番穏やかな大晦日、その落ち着いた時のながれの中にずっといれると思います。

帰国前が一番寂しいのが緑色の田園風景です。毎日自転車ですべてを走り、緑色から土色、そしてまた緑色の道を目には、それはまさに一年のツリガサを表している美しいシンボルでした。

僕はこの一年の経験を決して忘れないでいる。この先おみかおときは次の課を思い出してほしい。

"Don't cry because it's over, smile because it happened"  
泣くのを止めなさい、それは過ぎたのです! 笑いなさい、それがあったのだから

この言葉は、思い出をいつも神聖なものとして持ちおくことを教えてくれます。

また会える日まで

じゃあまたね

余談

今でもまだ日本の学校の木々が何でこんなに小さいかわからへんけど (笑)

小林克海

